

Parallelizer

Stereo Line Mixer

日本語版

OWNER'S MANUAL

Version 1.0x

Musicom 
Preserving Your Tone, Pure and Dynamic

この度は、Musicom 製品をご購入頂き、誠に有り難うございます。

本機の性能を十分発揮させると共に、末永くご愛用いただくため、必ずご使用前にこの取扱説明書をお読み下さい。お読みになった後は大切に保管してください。

ご使用になる前に、本機の性能をトラブルなく十分に発揮できる様、以下の説明を必ずお読み下さい。

■品質保証について

本機は、Musicom 日本総代理店 株式会社HOTONE Japan がご購入後1年以内の品質保証を行っております。

修理の際は、購入時の保証書（購入期日及び販売店捺印必須）を提示の上、ご購入の販売店に御依頼下さい。保証書の提示が無い場合、保証内であっても1年以内の保証の対象にはなりません。また、全ての商品には、シリアルナンバーが登録されています。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及びそれに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では、内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

▲警告：安全のため、特に注意していただきたいこと

1. 異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご購入先もしくは、弊社迄ご連絡下さい。異常な音がしたり煙が出て異臭がした時などは、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
2. 電気ショックを避けるため、本体を絶対に開けないで下さい。

本機は、高電圧が発生しているため危険です。内部に触ると感電する恐れがあります。内部の調整や修理は、弊社にご依頼下さい。また、火事や感電を避けるために、湿度が非常に高い場所に置いたり、雨天の際に野外で使用することは避けて下さい。

▲警告：次のような場所での使用は出来る限り避けて下さい。

- 湿度の非常に高い場所
- 砂やほこりが多い場所
- 台所、バスルーム、湿気の多い地下室など、水のかかりやすい場所
- 空気の循環を妨げる場所、ヒーターの近くなど、温度が高い場所

■電源ソース

電源は、DC9V / 200mA 以上（センター・マイナス）の電源アダプターに接続して下さい。

エアコン（エアコンディショナー、冷暖房機器）等の使用により、電圧が著しく低下する場合がありますから、家庭用100V電源が正しく出力されているかどうかテスターで確認しましょう。また、長時間本機を使用しない場合は、本機の電源コードをコンセントから抜いておきましょう。

■取り扱いについて

乾いた柔らかい布を使用して、外装をきれいに保ちましょう。

クリーナーやシンナーは使用しないで下さい。

■サービスについて

このマニュアルに記載されていない操作や取り扱いは行わないで下さい。記載外の使用方法で本機を使用されると製品不良が発生する場合が考えられます。必ず本書に基づいた使用方法で使用して下さい。

記載外の使用方法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。本体の取り扱いは慎重に行って下さい。

万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

一般のお問い合わせ ➔ ホームページ内の「お問い合わせ」ページよりご連絡ください。
商品の修理について ➔ ホームページ内の「修理について」ページよりご連絡ください。

1. ご紹介

Parallelizer (パラレライザー) をご購入頂きありがとうございます。

Parallelizer (パラレライザー) は、3 x Mono SEND & 3 x Stereo RETURN (Dry) を備えたパラレル・エフェクトループが可能なステレオ・ライン・ミキサーです。パラレライザーは、ドライ信号が独立してミキサー部に直接入力されます (ブロック図参照)。直列接続時やデジタルペダルからのドライ信号をミックスするという妥協が必要ありません。また、本機のシグナルフロー部は、バッファー、ミキサー共に高いクオリティーのコンポーネントを使用したアナログ回路でデザインされており、高い音質が保証されています。MIDI IN 機能で、Dry、各 Wet 信号の on/off も可能です。

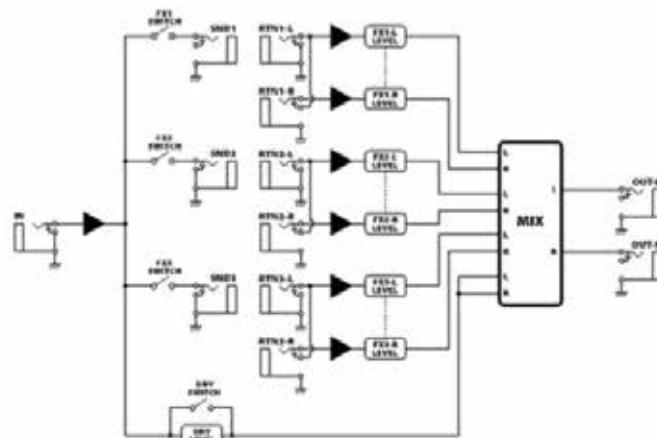
1.1 主な特徴

- 3 x モノ SEND、3 x ステレオ RETURNS & Dry (ドライ)
- エフェクトレベル、ドライレベルのそれぞれが、ボリューム設定できます。
- Manual、MIDI PC、MIDI CC、MIDI PC+CC の 4 つのモードで動作します。
- 128 メモリーロケーション (by MIDI PC)
- 9VDC 入力、+/-12VDC 内部電圧動作による高ダイナミックレンジを誇ります。
- MIDI 経由によるファームウェアアップデートが可能です。

1.2 スペシフィケーション

• 入力 / リターン インピーダンス	1M Ω
• 出力 / センド インピーダンス	100 Ω
• 最大信号レベル	+18dB
• 消費電流	130mA
• サイズ	160 x 96 x 71 mm
• 重量	570g

1.3 ブロックダイヤグラム



1.4 フロントパネル

FX1 ~ FX3 スイッチ

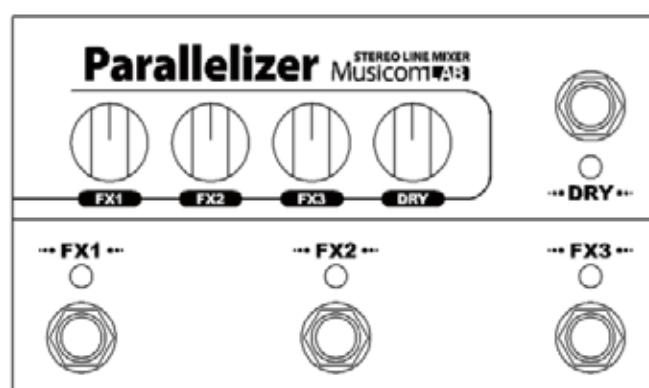
SND1 ~ SND3 を on/off します。LED が点灯している時、信号は各 SND ジャックから出力されます。

DRY スイッチ

100% ドライ信号(DRY ノブで設定)の on/off です。

FX1 ~ FX3 コントロールノブ

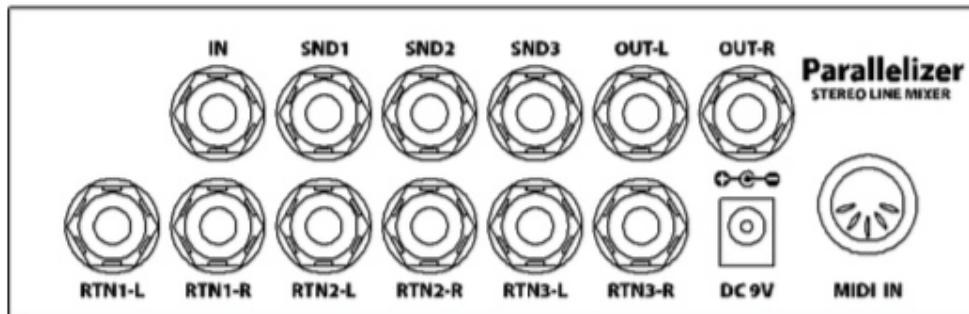
RTN-L & RTN-R ジャックに入力されるウェット (wet) 信号レベルをコントロールします。これらのコントロールノブを最大に回し切ったところが、ユニティーゲインのポジションです。逆に最小にすると信号はミュートされます。



DRY コントロールノブ

ドライ (dry) 信号レベルをコントロールします。このコントロールノブを最大に回し切ったところが、ユニティーゲインのポジションです。逆に最小にするとドライ信号はミュートされます。DRY スイッチの下にある LED が点灯していない時は、DRY コントロールノブの設定にかかわらず、ドライ (dry) 信号レベルは 100% ミックスされます。

1.5 リアパネル



IN ジャック

インストルメント、エフェクターからの信号を入力します。

SND1 ~ SND3 ジャック

エフェクターの入力と接続します。FX スイッチがオンの時に各エフェクターへ信号が送られます。

RTN1-L/R ~ RTN3-L/R ジャック

エフェクターの LR 出力を接続します。注) モノ接続の際は L リターンのみを使用してください。

OUT-L/R ジャック

この出力からアンプや他の機器へ接続してください。

MIDI IN

他の外部 MIDI 機器からのメッセージを受けます。

DC9V 電源コネクター

本機の電源入力です。DC9V 130mA が供給できる電源アダプター（センターマイナス）に接続してください。マルチ出力電源ユニットの多くは、グランドループによる電源ノイズを発生する恐れがあります。電源によるノイズが発生しないように、Strymon の Ojai、Zuma R300 電源の使用を推奨します。

2. オペレーションモード

本機は 4 つの異なるモードで動作します。『オペレーションモードの設定』をご覧ください。

2.1 マニュアルモード

このモードでは MIDI IN は使用されず、フットスイッチだけが働きます。電源を切る前の最終スイッチコンビネーションは自動的にメモリーされ、電源再投入時に復元されます。

2.2 MIDI プログラムチェンジ、MIDI PC モード

128 のプログラムチェンジが本機に保存されます。プログラム毎にスイッチの on/off コンビネーションが保存され、MIDI プログラムチェンジ (MIDI PC) でリコールされます。

スイッチコンビネーションのエディット、メモリーへのセーブ 方法：

- 1.** 本機への MIDI プログラムチェンジは同 MIDI チャンネルを使用してください。
- 2.** 本機のスイッチコンビネーションを決定します。

3. DRY スイッチを長押ししてメモリーに保存します。保存の際、LED が点滅します。注) LED が点滅しない場合は、MIDI チャンネルが合致していないのか、MIDI 接続がされていないことが考えられます。

2.3 MIDI コントロールチェンジ、MIDI CC モード

本機は MIDI CC でスイッチの on or off が可能です。それらには 4 つのコンビネーションがあり、CC ナンバーと共にセクション 5. の『グループ CC ナンバーの設定』で説明します。

2.4 MIDI PC + MIDI CC モード

このモードでは、本機は MIDI PC と MIDI CC の両方でコントロールされます。スイッチ on/off のコンビネーションは MIDI PC でリコールされ、各スイッチは MIDI CC で on/off されます。

3. オペレーションモードの設定

1. FX1 と FX2 を一緒に長押ししながら電源を接続します。FX1 と FX2 の LED がフラッシュしたら、スイッチを離してください。

2. 表のように LED が動作モードを表示します。

3. この表から、動作モードを FX1、FX2、FX3、Dry スイッチで選択します。

OPERATION MODE	FX1 LED	FX2 LED	FX3 LED	DRY LED
Manual mode	ON	OFF	OFF	OFF
Program Change mode	OFF	ON	OFF	OFF
Control Change mode	OFF	OFF	ON	OFF
Program Change + Control Change mode (Factory Default)	OFF	OFF	OFF	ON

4. DRY を長押しして動作モードを保存します。本機は自動的にリスタートします。

4.MIDI チャンネルの設定

1. FX2 と FX3 を長押しします。FX2 と FX3 の LED がフラッシュしたら、スイッチを離してください。

2. 4 つの LED が MIDI チャンネルを表示します。(MIDI チャンネル表を参照)

3. この表から、MIDI チャンネルを FX1、FX2、FX3、Dry スイッチで選択します。

MIDI Channel	FX1 LED	FX2 LED	FX3 LED	DRY LED
1 (Factory Default)	OFF	OFF	OFF	OFF
2	OFF	OFF	OFF	ON
3	OFF	OFF	ON	OFF
4	OFF	OFF	ON	ON
5	OFF	ON	OFF	OFF
6	OFF	ON	OFF	ON
7	OFF	ON	ON	OFF
8	OFF	ON	ON	ON
9	ON	OFF	OFF	OFF
10	ON	OFF	OFF	ON
11	ON	OFF	ON	OFF
12	ON	OFF	ON	ON
13	ON	ON	OFF	OFF
14	ON	ON	OFF	ON
15	ON	ON	ON	OFF
16	ON	ON	ON	ON

4. DRY を長押しして動作モードを保存します。本機は自動的にリスタートします。

5. グループ CC ナンバーの設定

1.FX1 と FX3 を一緒に長押ししながら電源を接続します。FX1 と FX3 の LED がフラッシュしたら、スイッチを離してください。

2.4つのLED がMIDI CC ナンバーを表示します。(MIDI Control Change 表を参照)

3. この表から、MIDI CC ナンバーを FX1、FX2、FX3、Dry スイッチで選択します。

MIDI Control Change Numbers				FX1 LED	FX2 LED	FX3 LED	DRY LED
FX1:88	FX2:89	FX3:90	DRY:91 (Factory Default)	ON	OFF	OFF	OFF
FX1:92	FX2:93	FX3:94	DRY:95	OFF	ON	OFF	OFF
FX1:96	FX2:97	FX3:98	DRY:99	OFF	OFF	ON	OFF
FX1:100	FX2:101	FX3:102	DRY:103	OFF	OFF	OFF	ON

4.DRY を長押しして動作モードを保存します。本機は自動的にリスタートします。

6. ファクトリーリセット

1.FX1&2&3 を一緒に長押ししながら電源を接続します。FX1&2&3 の LED がフラッシュし、DRY LED が点灯したら、スイッチを離してください。

2.DRY スイッチを押して、ファクトリーリセットを実行します。

3. ファクトリーリセットが完了すると、LED がシーケンス点灯して、本機は自動的にリスタートします。

7. パワーチェック機能

本機は 9VDC 電源で動作します。 これに伴い、電源電圧をチェックする機能があります。図のように電圧が 8.5V 以下だと FX1 LED が、10V 以上だと FX3 LED がフラッシュします。

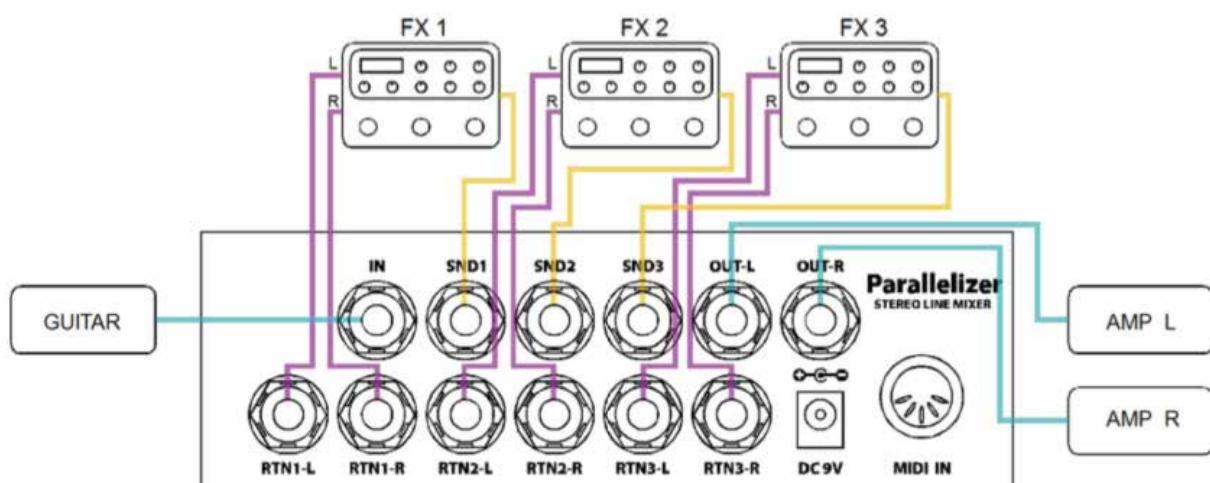
The FX1 LED will flash if the power is under 8.5V.



The FX3 LED will flash if the power is over 10V.



8. 接続方法



注) ボリュームがブーストされないように、接続した FX は wet 100% (kill Dry) に設定してください

Musicom Lab 正規輸入販売代理
株式会社HOTONE Japan
〒113-0034 東京都文京区湯島2-2-4 JP-BASE御茶ノ水9F
TEL 03-6820-5823
